

① 餓鬼地蔵 (新津東町)



昔飢饉の続いたある年、見るからに貧乏そうな夫婦連れがここを通り、空腹のために霊符神にもたれているうちに餓死してしまった。付近の人が見かねて草の中に埋葬してやった。夜になると悲しげな泣き声がかきこえ、人々は廻り道をするか、日が暮れるまえに、その前を通るようになった。

② 阿賀野川鉄橋 (中新田)



大正9年9月2日羽越本線が営業開始され、当時わが国最長(延長1,242m)の阿賀野川鉄橋が完成した。



(その後新幹線大井川鉄橋が出来その座を譲った。)

昭和36年8月19日踏切事故で大型トラックと旅客列車衝突により、第一鉄梁鉄台より落下した。

③ 神明宮の社号碑 (大安寺)



神明宮の氏子総代から懇請された坂口献吉(安吾の兄)が会津八一に助言を求めながら筆をとった碑である。

村の人々は、この社号碑の文字は『献吉と八一』の合作による作品と評している。

④ 神明宮の拝殿脇の東嶽の句碑 (大安寺)



表面には『東嶽翁・はらはらと鶏鳴うへや天の川』。裏面には『天保八年坂口九右衛門建』。そして両肩には『右作場道』、『左新津道』と刻まれていて、句碑に併せて道標も兼ねていたことが分かる。

東嶽というのは四代目坂口津右衛門のことで、この碑を建てた九右衛門という人は東嶽の弟にあたる。東嶽の句は、現在50句ほどしか知られていないが、この句は『北越三雅集』に辞世句として載せられ未発行に終わる。

⑤ 坂口安吾の眠る地 (大安寺)



昭和30年2月17日早朝『戦後最大の流行作家』と言われた坂口安吾が桐生市の自宅で急逝した。(享年50歳)安吾は大安寺の文人・政治家坂口仁一郎(五峰)の五男であり、本籍地は父祖の地である大安寺になっている。毎年命日である、2月17日の安吾忌には今も多くのファンがこの地を訪れ花を手向けて焼香している。新潟市は、安吾の功績をたたえ、安吾賞を創設し毎年表彰している。

⑥ 旧会津藩士伴百悦の墓地 (大安寺)



会津藩士伴百悦は、戊辰戦争(1868年)の折に越後にも参戦している。戦争終結後、士族(500石)の身分を捨てて、野ざらしになっていた戦死者の埋葬に奔走した。

しかし、新政府軍の非情な仕打ちに憤り、その役人を斬って越後に逃れ、坂口津右衛門を頼り身を寄せる。

明治3年(1870年)6月22日、追手に囲まれて自刃する。(享年44歳)伴の生涯を哀れんだ村人は、塩で遺体を包みこの地に埋葬した。

⑦ 壇一雄の句碑 (大安寺)

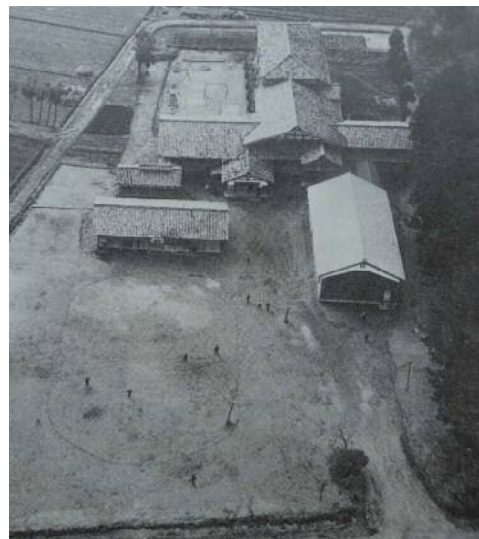


安吾の親友であった壇一雄が安吾の父の邸宅があった阿賀小学校を訪れた際に、初代の後藤寿衛校長のもとに依じて揮毫した色紙を模したものである。

安吾の『ふるさとの碑』の除幕式に訪れた折と思われる。安吾がスポーツマンであったということは広く知られている。水泳も得意(?)であったという説もあるから、その姿を思い浮かべての作か。

『亡き友の泳ぎし跡が川広し 大安寺にて壇一雄』

⑧ 旧阿賀小学校の設立当時全景 (大安寺)



坂口五峰(仁一郎)邸跡地の旧阿賀小学校全景東側より。旧邸宅は村松藩主の隠宅であった村松城南御殿を移したものだと言う。昭和57年閉校。

⑨ 旧阿賀小学校の記念碑 (大安寺)



昭和57年10月建立、11月除幕閉校記念誌より。

⑩ 寺新田盛岩寺の庚申塔 中世の石仏(大安寺)



由来については良く知られていないが、川から拾って来て寺に祭ったと言われている。新潟市文化財指定

⑪ 七体地蔵 (東金沢)



— 七体地蔵尊と狐の昔話 —

昔、この地帯一帯は、至る所すこい藪で狐の住家だった。隣村に稲刈りの手伝いに行き大層ご馳走になった帰り、提灯の明かりが消えて、月明かりを頼りに走って帰ったが、お家に戻れなかった、狐が人をだまさないようにと、この地にお地蔵様を建てたと言われている、それからはだまされる人はいなくなったそうだ。